

あとがき

そう考えると
なんだかうれしくなって
「ありがとうさん。ありがとうさん。。」つて
つぶやいていた。



この物語に出てくる「むらさきのおばあちゃん」は実在の人物で、私の義母にあたります。几帳面で優等生气質、少し頑固な義母との暮らしは私の人生に大きな影響をもたらしました。大正生まれの彼女の考え方に世代の違いを感じながらも、嫁姑のよい関係を保ちたくて私は必死で仕えました。

義母が「アルツハイマー型認知症」と診断された当初は、その進行の変化に振り回され、毎日が戸惑いと悲嘆の連続でした。この人は病気なんだと頭ではわかっているけど、どうして私がこんな目に……と、どこにもぶつけられない怒りを常に背負い、いつしか眉間には深いシワが刻まれて、笑うことさえも忘れてしまいました。

ある時、義母が大きな声で「ぼっ♪ぼっ♪ぼ♪はとぼっぼ♪ 豆がほしいか そらやるぞ！ みんなでなかよく食べにこい♪」と幼子のようにキラキラした瞳で台所ではしゃいで歌っているのを見て、あー今この人は本当に楽しいんだな……。この人の脳は純真な子どもになっているんだな……。と、私の張りつめていた気力がずっと抜けたことがありました。義母に常識をあてはめようとしてうまくいかず、ため息ばかりついている自分がバカバカしくなり、私も一緒に大きな声で歌ったのを覚えています。

その日から義母のお世話を一生懸命することをやめ、何事も適当にするようになりました。靴下を何枚も重ねて履いていても「寒いよね」……と、トイレットペーパーを部屋中に敷き詰めて潜っていても「かくれんぼしているよね」……と。

そんな毎日が何年も何年も過ぎ、現在 95 歳の義母は、今日も紫色の寝間着姿でベッドに横たわったまま、口元だけモゴモゴと動かししています。きっと「ありがとさん。。」とつぶやいているのでしょう。

私にこの本を書こうと思わせてくれた義母と、出版にあたりあたたく導いてくださった早瀬編集長に感謝とお礼を申し上げます。

そしてこの本を手にとり、ここまで読んでくださったあなたにもありがとさんがやってきますように……。心よりの「ありがとう」を贈ります。

平成 29 年 6 月吉日

もりもとみちこ

著者略歴： 森本 美智子（もりもと みちこ）

- 1965 年 5 月 11 日 宮崎県生まれ
- 終活カウンセラー協会認定 上級カウンセラー
- セミナー講師
- 結婚後、高齢の義両親と同居。3 人の子どもを育てながら、末期癌の義父と認知症の義母を介護した経験をもつ。
- 岡山県岡山市在住。

ありがとさんがやってくる

平成 29 年 6 月 15 日発行

著者 森本 美智子

701-0205

岡山市南区妹尾 3301-15

出版 丸善書店株式会社 岡山シンフォニービル店

出版サービスセンター

岡山市北区表町一丁目 5 番 1 号

電話 岡山 (086) 233-4640

©M. MORIMOTO 2017

ISBN978-4-89620-243-4 C0095 ¥1500E